

♪ 2022年度 **poco a poco** ♪

Nr. 23 2023年1月30日(月)

文責:プファイル・辰巳

音楽鑑賞会は今週木曜日です!

ピアニスト江尻南美さんをお迎えての音楽鑑賞会が、いよいよ今週木曜日に迫ってきました。各学年で事前学習も進んでいます。

バッハ、モーツァルト、ショパン、ムソルグスキー、そして前回の「ぽこあぽこ」で紹介した日本の作曲家、宮城道雄など、いろいろな作曲家の作品を聴きます。みなさんがよく知っている曲や初めて聴く曲などいろいろあると思います。当日、プログラムを用意しますがその中から抜粋した曲目を紹介しましょう。



音楽鑑賞会 プログラム…(抜粋)

J.S.バッハ	ゴールドベルク変奏曲	より
モーツァルト	ピアノソナタ KV331	より
ショパン	練習曲集	より「革命」
宮城道雄	「春の海」	
ムソルグスキー	組曲「展覧会の絵」	より

※1部と2部で異なる場合があります。またプログラムはこの他の曲も用意されています。

小学校や中学校の教科書に掲載されている鑑賞曲も考慮に入れて、江尻さんがみなさんのためにプログラムを工夫してくださいました。みんなで一緒に、江尻さんのすばらしい演奏を楽しみましょう!

音楽こぼれ話 <バッハ作曲:ゴールドベルク変奏曲と

グレン・グールドのピアノ>

変奏曲(Variation)とは、一つの主題(テーマになるメロディ)の、拍子やリズム、和声などに変化を加えたり、旋律に装飾を加えたりしながら、変奏していく作曲法です。モーツァルトの「きらきら星変奏曲」やチャイコフスキーの「ロココの主題による変奏曲」などが有名です。

今回音楽鑑賞会のプログラムに入っている「ゴールドベルク変奏曲」は、J.S.バッハの代表作で、バッハ自身の表題は「2段鍵盤付きクラヴィチェンバロのためのアリアと種々の変奏」となっています。変奏曲は全部で30種類もあるので、全曲弾くと大変な大曲になります。今回は主題のアリアだけを聴きます。

この曲は、バッハの弟子であったゴールドベルク少年が不眠症に悩む知人のために演奏した、という逸話があり、主題のアリアは特に「眠りを誘う曲」と言われています。題名もこの逸話から「ゴールドベルグ変奏曲」となりました。

チェンバロのために作曲された曲とあって、チェンバロからピアノへと楽器の主流が移り変わった時代から20世紀初頭まで、この名曲は演奏されることが少なかったそうです。そこに登場するのがグレン・グールドです。

1932年、カナダ・トロント生まれのピアニスト、グレン・グールドが、1956年にレコード会社の反対を押し切って、デビュー盤として、このゴールドベルグ変奏曲を録音、発売したそうです。これが大ヒットし、グールドといえばゴールドベルグ、ゴールドベルグといえばグールドの名前が出てくるほど、グレン・グールドは時の人となりました。

主題のアリアは、愛する夫人アンナ・マグダレーナ・バッハのために夫のヨハン・セバスティアン・バッハが編集した音楽帳の中にも入っています。バッハ自身もお気に入りだったのでしょか。

ほんのちょっとだけ 演奏会情報

3月3日(金)、4日(土) 19:30 から アルテオーパー・大ホールにて
「ハリーポッターと賢者の石 in Concert」

3月5日(日) 15:00 と 19:30 の2回公演 アルテオーパー・大ホールにて
「スターウォーズ in Concert」